

## 『マンダレー』に行きました

みなさんこんにちは。今日は7月7日、七夕ですね。時期的にそちらは青空の広がるさわやかな季節だと思うのですが、こちらは雨季に突入したため毎日雨の日々となっています。小学5年生の理科の授業に『水中の小さな生物』という単元があり、顕微鏡を使って水中の微生物を観察、それをメダカなどの小動物が食べている…という授業を行います。2週間ほど前に微生物の集団が大量に生息しているポイントを発見しておいたのですが、実験前日に採取に行くと何と大雨によってきれいさっぱり微生物が流されてしまい、1匹もいなくなっていて慌てるということがありました。やはりヤンゴン、常に予測していないことが起こるので早め早めの準備が必要ですね。

ところで上の話、『なぜ実験2週間前に下見?』と思われる方もいらっしゃると思うのですが、そうせねばならない状況だったのです。実は先週、タイトルにあるように中学部の宿泊体験



引率でマンダレーに行ってきました。地図にあるように首都ネーピードーよりも北部、昨年行ったバガンと同様ミャンマー中部乾燥地域にあるこの都市は、ミャンマー国最後の王都だった街です。そのため当時から伝わる伝統や文化なども多く、マンダレー地方特産の手織り物工房や、ミャンマー産チークを使って作られたウーベイン橋やシュエナンドー僧院、また、マンダレー王朝時代の隆盛を感じさせる大理石造りのグドオパゴダ(ミャンマーでも数少ない世界遺産!)やシンピューメーパゴダ、そして完成していればミャンマー国内最大となっていたミングォンバヤーなどがあります。それと同時にミャンマー中部の中枢都市でもあるため人も多く、マハーガンダーヨン僧院ではなんと1,500人の僧侶が勉強に励んでいます。僧院に学ぶ生徒たちが食事時になると全員整列して食堂に向かう姿は圧巻です。



そんなマンダレーで今年生徒が学んだのは『国際ボランティア』。日本発祥の国際医療NGOであるジャパンハート(<http://www.japanheart.org/>)がマンダレー近郊のワツチュで慈善医療活動を行っており、そちらの活動を見学させていただきました。この病院では18歳以下は無料で診察、治療を受けることができるため、ミャンマー各地からたくさんの方が訪れます。ジャパンハートを主宰する吉岡医師が来緬している時は、多数の手術患者であふれかえるため、午前3時頃まで手術予定が組まれているそうです。

そんな現場を本校の生徒達は目の当たりにし、色々感じるところがあったようです。入院している子どもたちと折り紙や紙相撲で交流している時間は、言葉はうまく通じなくても身振り手振りを交えながら、一生懸命伝えようとし、そしてミャンマーの子どもたちもそれを感じ取ろうとする。そんな光景を見ながら、一人でも多くの生徒が『心で繋がる』姿勢をもって世界に羽ばたいてほしいと強く思いました。



それではまた来月、こちらでの生活を報告します。

